

## Close Up クローズアップ 教育プログラム

# 地域の交通安全指導者の知識と経験を新たな教育プログラムの開発に活かす

8月22日と23日の両日、Hondaが主催する交通安全教育プログラム勉強会がHonda青山ビル(東京都港区)で開催された。この勉強会は、地域の交通安全指導者が相互の指導方法の確認や意見交換を通じて、指導力の向上に役立ててもらふこと、交通安全指導者の知識と経験を新たな教育プログラムの開発に活かすことを目的としている。

今回は8地区から交通安全指導者15名が参加した。

1日目は参加者が日々の活動内容や、幼児や児童への交通安全教育の手法、指導に活用している教材などを紹介(写真参照)。

2日目は3つのグループに分かれ、「児童(小学生高学年)向け自転車プログラム」「生徒(中学・高校生)向け自転車プログラム」「SAFETY MAP※1の活用」についての討議を行った。

「自転車プログラム」の討議では、自転車関連事故の現状を踏まえ、乗車やルールに関してそれぞれに伝えたいことなどを各グループで話し合った。小学生に対しては、伝えたいこと、そのポイントとなる解説内容を考案。中学・高校生に対しては伝えたいこと(ルール、事故を起こしたときの責任など)に加え、効果的に伝える方法(イラスト、アニメーション、実写映像など)について検討した。最後に、グループごとに討議した内容を

発表し、参加者全員で共有した。参加者から収集した意見やアイデアは今後、児童・生徒向けの新たな「自転車プログラム」の開発に活かされる予定だ。

「SAFETY MAPの活用」では、小・中学生が交通事故に遭わないために必要な情報と、その伝え方(SAFETY MAPへの表示方法など)について、参加者から意見や要望を募った。参加者は「他の地域の皆さんと直に情報や意見を交換できるのは貴重な機会です。指導の手法や話し方を実際に確認できて、とても参考になりました」「手法は様々ですが、伝えたいことはどの地域も同じことがわかったので、自分たちの指導内容は間違いではないと再確認できました」「教材を開発する際、現場で指導する私たちの声を聞いていただけるのは、ありがたいです。そうした過程を経て完成した教材は使い勝手も良いですし、愛着がわきます」と、今回の交通安全教育プログラム勉強会の感想を語った。

※1 Hondaが開発し、2013年から公開しているソーシャルマップ。日本中を走る Honda インターナビ(双方向通信型のカーナビ)搭載車から通信で送られてくるデータをもとにした急ブレーキ多発地点情報をはじめ、事故多発エリア情報やゾーン30情報などを地図上に表示。パソコンやスマートフォンで自由に閲覧でき、閲覧者が交通安全上危険だと感じた場所に投稿することが可能となっている。

※2 4~5歳児を対象としたHondaの交通安全教育プログラム。歩くことに焦点を当て、「どこを歩くのか」「どのように歩くのか」を考えてもらいながら交通安全の基本を学ぶことができる。



2019年以来、5年ぶりに開催された交通安全教育プログラム勉強会には北海道、青森県、茨城県、東京都、静岡県、兵庫県、岡山県、鹿児島県から交通安全指導者15名が集まった

1日目は参加者が相互に活動内容や交通安全教育の手法、教材を紹介



茨城県つくば市では、守ってほしい自転車のルールやマナーを「はぶふは」にまとめて小学生に伝えている



鹿児島県鹿児島市は、幼児向けの交通安全教室での「あやとりい ひよこ※2」の使い方を紹介



2日目に行われたグループ討議では参加者同士で活発に意見を交換



各グループの代表者が討議した内容を発表

## 今回の交通安全教育プログラムに参加した青森市と岡山市の活動

### 青森県青森市

青森市では同市の交通安全推進チーム(2名)が幼稚園・保育園と小学校での交通安全教室を担当している。2023年度は市内の幼稚園・保育園で102回、小学校等で25回、交通安全教室を実施した。

幼稚園・保育園での交通安全教室では手づくりの教材を使って、道路や駐車場内の飛び出しの危険性を伝えている。そして、道路を渡る前に必ず止まって手を上げ、左右を確かめること、道路を半分渡ったところで左に注意することを模擬の横断歩道で子どもたちに練習してもらふ。さらに、青森県警察が推進している「ハンド&サンクス」が実践できるように指導。「ハンド&サンクス」とは、「渡る合図(手を上げる、手を差し出すなど)」「ありがとう(止まったクルマに感謝の気持ちを伝える)」。

交通安全推進チームの山田美恵子さんは「信号機のない横断歩道を渡る時、右側のクルマが止まっていたら、そのドライバーに頭を下げて、感謝の気持ちを伝えます。道路の中央に来たら左側を見て、クルマが止まっていたら、そのドライバーに対しても頭を下げることを意識づけています。このようなこ



青森市の交通安全推進チームによる幼児向け交通安全教室



道路を渡る前の手上げや安全確認を実践してもらふ

どもの姿を目にしたドライバーは、やさしい気持ちになって、その後も横断歩道で歩行者保護してくれるはず。2024年からは小学校の交通安全教室にも『ハンド&サンクス』を取り入れています」と話す。

### 岡山県岡山市

岡山市では交通指導員がエリアを5カ所に分けて2名ずつ交通安全活動を行っている。2023年度の指導件数は975回、このうち交通安全教室は668回である。主な対象は幼児と小学生、中学生だが、毎月1~2回は高齢者を対象にした交通安全教室を実施している。

今回の勉強会に参加した交通指導員の田淵典子さんは「岡山市では自転車を利用する人が多く、運転免許を返納した高齢者が代替の移動手段として自転車を利用するケースが少なくありません。そのため、高齢者向けの交通安全教室では自転車の交通ルールや事故防止について啓発しています」と話す。特に強調しているのは、車道での左側通行といった自転車の通行位置と、ヘルメットの着用である。交通指導員が高齢者に扮し、寸劇形式で典型的な自転車事故を再現。交通ルールの遵守が事故防止につながることをわかりやすく伝えるように工夫しているという。

また、岡山市交通安全キャラクター「まもも」も高齢者向けの交通安全教室で活躍している。2020年に岡山市が市内の県立高校に協力



岡山市の交通指導員による高齢者向け交通安全教室



自転車を利用する際のヘルメット着用を啓発



勉強会で紹介された岡山市交通安全キャラクター「まもも」を主人公にしたオリジナルの紙芝居(幼児向け)

を呼びかけ、デザイン科を持つ高校の生徒からオリジナルキャラクターを募集。その中で最優秀作品となったのが「まもも」(岡山の桃をイメージしたレッサーパンダ)である。2024年度から小学生のランドセルカバーは「まもも」が描かれたデザインが採用された。